シリーズ 第87回

岩屋城の奇襲

津山市中北上の国道一八一号北側にある岩屋山に造られた中世の山城・岩屋城は、嘉吉元年（一四四一）年に築城されたといわれています。美作西部から津山盆地を臨む拠点の城として数々の攻防が行われてきた山城で、安土桃山時代には、備前の宇喜多直家と安芸の毛利輝元の争点となります。

天正二年（一五七四）三月、毛利方の芦田氏の守る岩屋城は宇喜多方の攻撃を受け落城し、宇喜多直家の叔母聟といわれる浜口家職が城主となりますが、毛利輝元からこの岩屋城奪還を命じられたのが葛下城（鏡野町山城・中谷）城主・中村頼宗です。

中村頼宗の岩屋城攻略については、後に書かれた色々な資料があり、それぞれに微妙に食い違いもあるのですが、おおむね以下の内容です。

天正九年（一五八一）、岩屋城が正攻法では落とせないことを悟った頼宗は奇襲作戦を思いつきます。まず正面の大手門に、同じ毛利方に属する桜井直豊を大将に、頼宗の配下である木村勘兵衛ら二〇〇余騎を配置し、背後からは西浦城（養野）城主・大原主計助（介）を隊長として、二十四・五歳から四〇代の三十二名の勇士を選抜して決死隊を編成しました。

岩屋城の西北は非常に険しい崖で、人が通行できる場所ではなかったため、警備が手薄でした。そこで三十二名の勇士は、六月二十五日の風雨の夜に奇襲を決行し、この険しい崖をよじ登り、城の背後へと到達し城内へ攻め込みます。予想もしなかった場所から攻められた城兵は混乱し、これに呼応して大手門の二〇〇余騎の軍勢も攻め寄せたため、城兵は総崩れとなり落城し、城主・浜口家職も討ち死にしたといわれます。これにより、毛利輝元は三十二人の勇士に感状（感謝状）を送り、頼宗は輝元の命令で岩屋城の城主となりました。『作陽誌』には、岩屋城攻めに際し頼宗が羽出の大日山光明寺を参詣して戦勝祈願し、戦に勝利した後に寺を修復して、自身の守りとして持っていた不動明王像を奉納したと書かれています。

三十二人の勇士については全員の名前は伝わっておらず、資料によって掲載されている名前が違いますが、『作陽誌』『美作略史』『美作古簡集 下巻』『美作古城史』『陰徳記』などの資料から総合すると、武本又三郎・武本源兵衛・立石孫一郎・大林久助・西尾与九郎・桜井藤兵衛直喬・桜井久次郎直澄・須藤市右衛門・原田藤七郎・片山左馬助秀胤・福田助四郎・村上六郎太郎・石井五郎太夫・辻新次郎正忠の十四名の名が確認できます。このうち、武本又三郎・源兵衛の兄弟は黒木、大林久助は上森原、桜井藤兵衛・久次郎の兄弟は塚谷、片山左馬助は吉原もしくは古川に在住する国人（地侍）で、隊長の大原主計助は養野の西浦城主、大手門攻めを指揮した桜井直豊は藤兵衛ら兄弟の父ですから、美作の戦国時代の合戦の中でも名高い岩屋城奇襲攻略の要として、現在の鏡野町域の侍たちが大いに活躍していることがわかります。

参考：『作陽誌』『美作古城史』『鏡野町史』『奥津町史』『美作国の山城』『陰徳太平記』

岩屋城跡（津山市中北上 県指定史跡）

葛下城跡（山城・中谷 町指定史跡）

大日山光明寺（羽出 町指定史跡）

生涯学習課 日下
電話(0868)54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/